+博論書式 3(論博書式 3)

平成 29 年 1 月 18 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分　　野	理学療法学分野･応用理学療法学領域
学籍番号	14S3029	院生氏名	櫻井　陽子

通学キャンパス	東京青山キャンパス
論　文　題　目	二重課題のパフォーマンスに課題特性が及ぼす影響と課題選択への影響因子に関する研究
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格

１．本研究論文について

1）二重課題は、評価及び訓練としても積極的に用いられる。特に今日問題として注目される転倒予防の評価及び訓練としても関心が高くなっている。一般に第一課題として運動課題が用いられ、同時に行われる第二課題として運動・認知課題が選択的に用いられる。本研究の目的はそれぞれの課題となる動作の特性を確認し、課題選択への影響因子を明らかにすることである。また本研究は下記の 3 つの研究課題に分けて構成されている。

課題は 7 題で認知課題 5 題（後出しじゃんけん、7 減算、しりとり、3 桁逆唱、ストループテスト）、運動課題 2 題（色踏み、コップ移動）である。研究 1 は、若年者・高齢者 40 名を対象にプローブ反応時間から課題難易度を調査することである。研究 2 は、高齢者 31 名を 3 群に分け、研究課題 1 の結果から最難・易課題を選び、各群 4 週間の二重課題訓練実施前後の身体・注意機能の評価を行うこと、研究 3 は、高齢者 38 名の課題正答数や基本属性、生活歴を調査し、課題成績に影響する因子を検討することである。

結果は、課題難易度は運動課題よりも認知課題で高く，4 週間の二重課題訓練では運動・注意機能面に変化は得られたが，変化理由の解釈が困難な点もあった．また，課題選択には生活歴が関与することが示された．以上から、二重課題の課題は難易度が異なり，二重課題訓練の課題設定には，課題難易度や個人の生活歴を考慮した課題設定や訓練期間，介入時間および頻度の設定が重要であることが明らかとなった。

2）副論文「最大一歩幅や歩行動作における下肢筋群の加齢に伴う役割の変化について」は合格である。

3）本研究に倫理上の問題は認めなかった。

4）知見の新規性と価値について

二重課題実施においては、課題の難易度および個人の生活歴を考慮すべきことを客観的に示したことに本研究の新規性と価値を認める。

２．審査経過について

審査会は２回実施し、データの分析方法、結果の考察および論文形式について修正を求めたところ、適切に修正された。

３．口頭試問の結果について：口頭試問において質問に丁寧・的確に回答した。

以上の結果から、審査員全員は本論文が、著者に博士（保健医療学）の学位を授与するにふさわしい価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　黒川幸雄　教授 副　査　　藤田郁代　教授 副　査　　糸数昌史　准教授